

2024年度 地域密着型金融の取組み状況

中小企業の経営支援に関する取組方針・・・・・・・・・・ 1

中小企業の経営支援に関する体制整備の状況・・・・・・・・ 1

中小企業の経営支援に関する取組状況・・・・・・・・・・ 2

① 創業・新規事業創出支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

② 成長段階における支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

③ 経営改善の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

④ 事業再生・業種転換等の支援・・・・・・・・・・・・ 5

⑤ 事業承継・M&Aが必要な企業への支援・・・・・・・・ 6

⑥ メイン取引先への支援・・・・・・・・・・・・・・ 6

地域の活性化に関する取組状況・・・・・・・・・・・・・・ 7

中小企業の経営の改善及び 地域の活性化のための取組みの状況

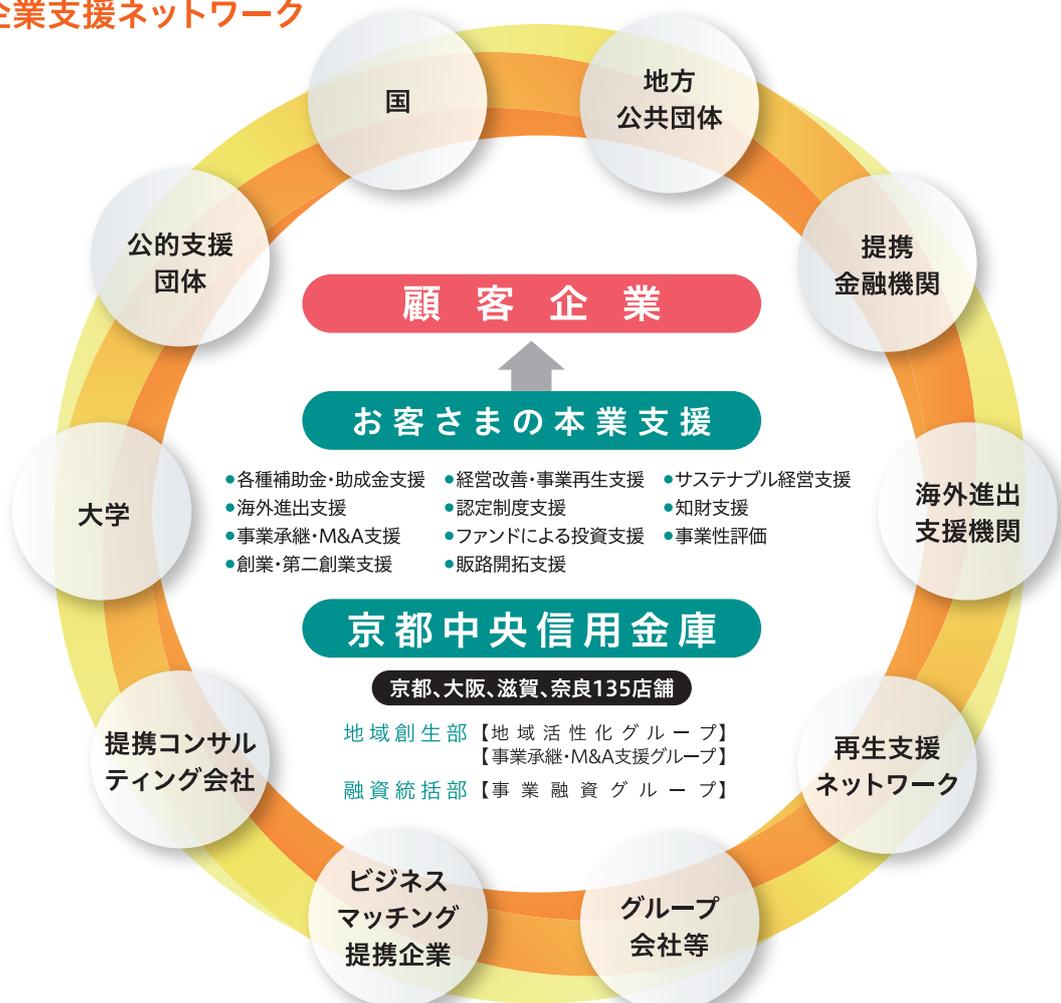
中小企業の経営支援に関する取組方針

当金庫は、中小企業等経営強化法の認定支援機関として、中小企業・小規模事業者のみなさまがそのライフステージに応じて抱えておられるさまざまな経営課題に、きめ細やかに対応できる態勢を整備していく方針です。本部および営業店が一体となり、中小企業・小規模事業者のみなさまに対する支援態勢の構築と支援内容の充実を図り、顧客のみなさまの経営力強化に資する取組みに努めてまいります。

創業あるいは新事業の展開、また事業が成長段階にある場合には、産学公と連携した各種事業支援メニューを活用し、成長をバックアップする取組みに努めてまいります。また、経営改善が必要な場合には「京都再生ネットワーク会議」を活用し、外部専門家（コンサルタントや税理士など）、外部機関（中小企業活性化協議会や地域経済活性化支援機構など）、他金融機関との連携を図りつつ、実効性のある経営改善アドバイスや経営改善計画の策定支援に努め、経営者のみなさまとともに事業再生ならびに経営課題の解決に取り組んでまいります。

中小企業の経営支援に関する体制整備の状況（体制組織図）

京都中央信用金庫の 中小企業支援ネットワーク



1 創業・新規事業創出支援

● ファンドの活用を通じた成長支援

当金庫では地域活性化や企業成長支援においてさまざまなファンドの活用を積極的に進めています。グループ会社である中信ベンチャーキャピタル(株)や、下記の出資しているファンドの紹介を通じて出資することにより、取引先企業の成長を支援しています。

当金庫が出資する主なファンド

- 京都市スタートアップ支援投資事業有限責任組合
- 京都市スタートアップ支援2号投資事業有限責任組合
- 地域づくり京ファンド有限責任事業組合
- みやこ京大イノベーション投資事業有限責任組合
- みやこ京大イノベーション2号投資事業有限責任組合
- みやこ京大イノベーション3号投資事業有限責任組合
- リアルテックファンド4号投資事業有限責任組合
- MBC Shisaku1号投資事業有限責任組合
- SBI AI&Blockchain 投資事業有限責任組合
- SBI4&5 投資事業有限責任組合2号

● 創業支援融資

当金庫プロパーでの取組みに併せて日本政策金融公庫や営業地区の各信用保証協会と連携し、創業支援を行っています。

2024年度実績		支援件数
創業支援件数		2,167件
融資支援(プロパー)		1,505件
融資支援(信用保証付保)		646件
政府系金融機関・創業支援機関の紹介		16件

● 中信ベンチャーキャピタル(株)における投資実績

当金庫はスタートアップ企業を支援するため、グループ会社である中信ベンチャーキャピタル(株)にて投資活動を行っています。2024年7月には「中信ベンチャー・投資ファンド7号投資事業有限責任組合」(設定額10億円)、2025年1月には「中信ベンチャー・投資ファンド8号投資事業有限責任組合」(設定額10億円)を設立、地元スタートアップ企業への積極的な支援を通じて地元活性化に努めてまいります。投資後には京都中央信用金庫グループ一丸となり、企業価値最大化のための伴走支援を行っています。

2024年度投資実績	
件数	12先
金額	815百万円

2 成長段階における支援

● 中小企業支援策を活用した支援

中小企業支援策を積極的に活用し、取引先企業と地域の活性化に向けた支援を行っています。

2024年度実績		支援件数
中小企業支援策の活用件数		3,236件
各種補助金・助成金の支援先		134件
認定支援機関の経営改善支援		272件
各種ビジネスマッチングの活用※		2,830件

※ ビジネスマッチングには販路拡大に向けたフェア等への参加も含まれます。

● 中信ビジネスフェア

2024年10月9日・10日の2日間、京都府総合見本市会館(京都パルスプラザ)において、異業種交流複合イベント「第36回大商談会 中信ビジネスフェア2024」を開催しました。

2024年度は「出会い つながり イノベーション ～価値創造で輝く地域～」をテーマとして、さまざまなノウハウを持った企業に出展・来場いただき、各種ビジネスマッチングの機会を提供するとともに、百貨店・スーパー・商社・海外企業等のバイヤーを招致し、販路開拓や売上拡大の支援に取り組みました。今年度もリアル会場とオンライン会場のハイブリッドで開催し過去最多となる362社の企業・団体に出展いただきました。今回は「イノベーションゾーン」や「食フェスタゾーン」のほか、2024年1月に発生した地震と9月の豪雨で被災した、能登半島を含む北陸地域の応援ゾーンを設けるとともに、当金庫から寄付金と義援金、合計1,500万円を石川県に寄贈いたしました。

中信ビジネスフェア全体ではオンライン含めて、約15,700名にご来場いただき、会場は盛況でした。



● 合同企業説明会『京都ジョブ博2024』

2024年5月8日・15日・18日の3日間、京都経済センター2階「京都産業会館ホール」にて、京都ジョブパークと連携し『京都ジョブ博2024』を開催しました。

地元企業149社に参加いただき、京都企業への就職を希望する学生のみならず、マッチング機会の提供を通じ、企業における人材確保の課題解決を支援しました。



京都ジョブパーク連携『京都ジョブ博2024』

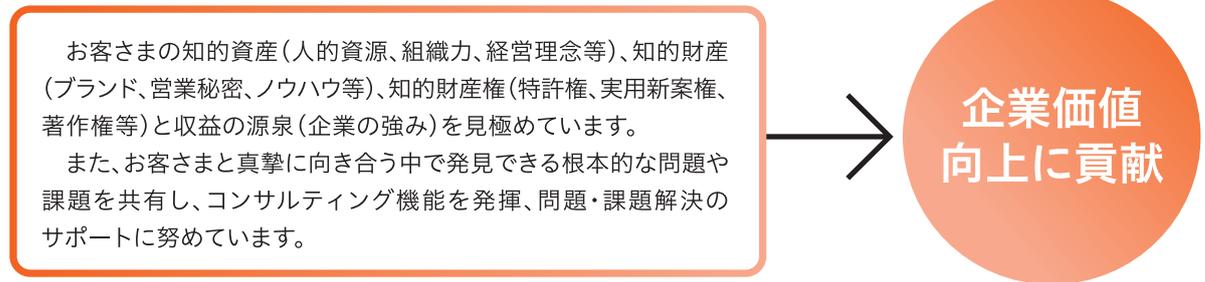
参加企業数
149社

参加者数
1,174名

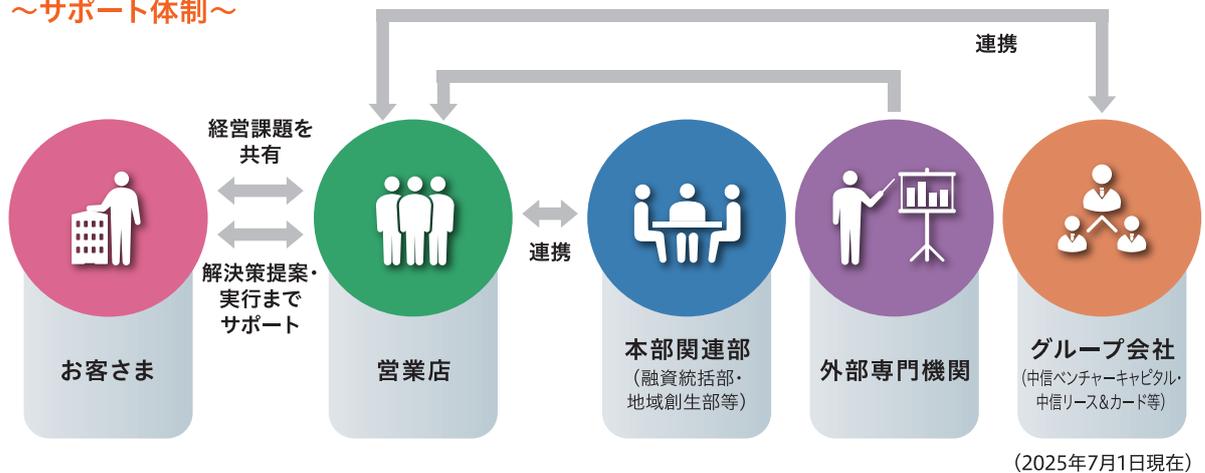
採用・内定数
8名

● 事業性評価

～お客さまと面談を行い、事業性評価シートを作成して事業内容を詳細に把握し、財務諸表に表れず見えにくい経営資源を見出す～



～サポート体制～



● 「フードストアソリューションズフェア2024」への出展を支援

2024年9月4日・5日にインテックス大阪で「フードストアソリューションズフェア2024」が開催されました。百貨店、量販店等が多数来場するため、販路開拓・拡大に向けたPRの絶好の機会となっています(2日間で計16,152名来場)。

当金庫専用ブースに出展された20社は、4月～9月の間、当金庫主催の「集客スキルアップ講座(計7回)」に参加し、①SNS集客、②キャッチの利いたバックパネル、③手書きポップなど、テーマごとに展示ブースの集客力を高めるためのスキルを身につけてられました。

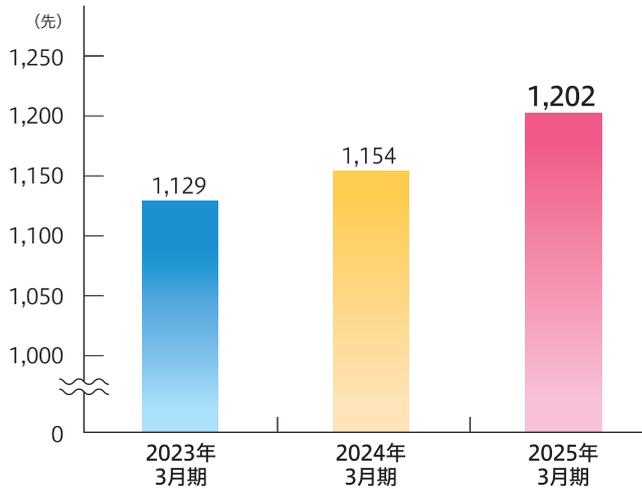
当日は、魅力あるブースを設営いただくとともに、バイヤーとの商談を積極的に行い、販路拡大に取り組まれました。



3 経営改善の支援

● 経営改善支援先への積極的な取組み

「経営改善計画書」の策定支援状況(累計)



(注) 当金庫が計画策定に関与した先の累計であり、現在正常化した先、完済した先も含まれます。

当金庫は毎年度毎に経営改善を重点的に支援する先として「経営改善支援先」を選定しています。2024年度は173先を選定し経営改善計画書の策定支援や経営改善計画のモニタリング、改善に向けた助言・指導を行うなど経営改善をサポートしています。

- 計画書書式は、以下の当金庫ホームページからダウンロードいただけます。
<https://www.chushin.co.jp/business/download/index.html>

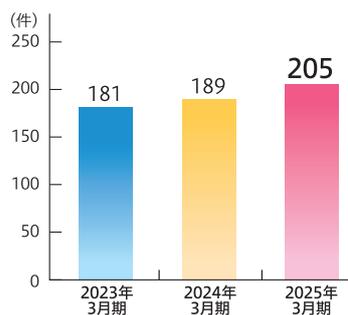
4 事業再生・業種転換等の支援

抜本的な経営改善を必要とする取引先企業の早期事業再生のため、「京都再生ネットワーク会議」の機能を十分活用し、中小企業活性化協議会などの外部機関や他の金融機関との連携、また経営コンサルタントや公認会計士、税理士などの外部専門家との連携に努め、各種企業再生スキーム等により事業再生支援に取り組んでおります。

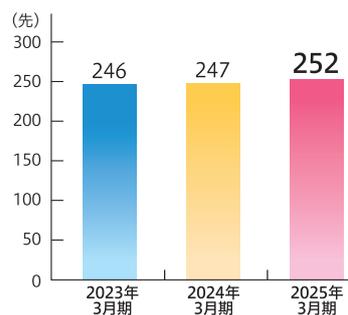
また原材料価格・燃料費の高騰、円安、人手不足などの影響により、経営改善計画の策定が難しい取引先企業に対しても、さまざまなサポートを行っています。

① 中小企業活性化協議会 405事業の活用実績

「中小企業活性化協議会」の活用実績(累計)



「405事業(旧経営改善支援センター)」の活用実績(累計)



② 早期経営改善計画策定支援事業「バリューアップ支援事業の取組状況」

「バリューアップ支援事業(旧ポスコロ事業)」の取扱いは、2024年2月から金融機関にも一定の条件で解放されています。京都府中小企業活性化協議会の2025年3月末日時点での累計取扱状況は、利用申請書受付12先のうち8先が当金庫の取扱いとなっています。

● 事業再構築補助金の申請支援

経済産業省 中小企業庁では、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応するために、企業の思い切った事業再構築を支援する施策として『事業再構築補助金』を交付しています。当金庫は認定経営革新等支援機関として、申請者の事業計画策定を伴走支援いたしました。

制度名	採択者数
事業再構築補助金(第1回～第12回)	553者

5 事業承継・M&A支援が必要な企業への支援

● 事業承継・M&A支援

① 新たなM&A支援の体制 ～当金庫が直接受託する取組み～

当金庫は新たな事業承継、M&A支援として2023年度より当金庫が直接顧客から受託し、仲介(またはFA)を行う取組みをスタートしました。これはM&A支援を内製化するものです。その結果、この直接受託分と当金庫が提携するM&A仲介会社を利用した2024年度の成約実績は、23件となりました(2023年度は10件)。2025年度も引き続き高度な支援を提供してまいります。

② 公的支援機関と連携した事業承継支援の実現

当金庫はM&A仲介会社と連携した事業承継・M&A支援とともに、地域の公的支援機関と連携した事業承継支援を行っています。公的支援機関は主に事業承継・引継ぎ支援センターを中心に第三者承継のみならず、親族内承継まで広範に相談持ち込みを行っています。その結果、昨年度に引き続き、京都府事業承継・引継ぎ支援センターでは京都府に本店を置く地域金融機関で最多の相談持ち込み件数となりました。

③ 中小企業庁主催「令和6年度事業承継シンポジウム～金融機関編～」への参画 (2024年11月)

全国の中小企業の事業承継を支援する中小企業庁主催「令和6年度事業承継シンポジウム～金融機関編～」に中小企業庁の招聘を受け当金庫が参画しました。当日は中小企業庁の講演の後、3信用金庫が登壇。その1つとして当金庫が登壇しました。



6 メイン取引先への支援

● メイン先数

創業支援、成長支援、再生支援、事業承継・M&A、ビジネスマッチング等ライフステージに応じた経営支援により、お客さまとの取引拡充に努めています。

【企業単体ベース】

(※1)メイン取引先とは主に当金庫融資残高が1位の取引先です。

指標	2024年3月期	2025年3月期
全取引先数	26,607社	26,952社
うちメイン取引先数(※1)	18,648社	18,478社
全取引先数に占める割合	70.0%	68.5%

【企業グループベース】

(※2)経営指標改善先とは、前期対比で、売上・営業利益率・自己資本比率のうち、いずれかが改善した先です。

指標	2024年3月期	2025年3月期
メイン取引先数	15,981社	15,897社
うち経営指標改善先数(※2)	11,074社	11,169社
メイン取引先に対する融資額	14,834億円	15,149億円
うち経営指標改善先に対する融資額	12,500億円	12,718億円

● 「経営指標改善先」に対する融資残高推移

営業店と本部の連携により、ライフステージに応じた経営支援を実施した結果、経営指標改善先に対する融資額も着実に増加しています。

これらの支援を通じて、取引先企業の経営改善や成長力の強化を図り、地域へのコミットメント・地域企業とのリレーションをさらに深めています。

「経営指標改善先」に対する融資残高推移



中信学生デザインコンテスト

2024年10月9日・10日の2日間、中信ビジネスフェア2024の特設会場にて、一般社団法人 京都知恵産業創造の森との共催により「中信学生デザインコンテスト2024」を開催しました。

当コンテストは、次代を担う大学生などの斬新で創造的なデザインの発掘と産学公連携を通じたビジネスマッチング機会の創出による地元企業の発展を目的として2008年より開催しているもので、今回は、取引先企業7社の「パッケージデザイン」や「ロゴマーク」のニーズに加え、当コンテストの作品募集ポスターデザインをテーマとして作品を募集。15校の大学・大学院・専門学校から146作品を出品いただきました。

表彰式は京都経済センター3階のオープン・イノベーション・カフェKOINにて開催し、ご出席者、ご来場者のみなさまに受賞作品をご覧いただきました。



中信杯全京都学童軟式野球選手権大会に協賛《1989年より》

京都府下の小学生が友情と夢を胸に、真夏のグラウンドで熱戦をくりひろげる「中信杯全京都学童軟式野球選手権大会」とともに2007年からは春季大会にも協賛。スポーツを通じて明日を担う小学生の育成に協力しています。



公益財団法人 中信美術奨励基金《1987年4月設立 2011年4月1日より公益法人移行》

京都の美術文化向上に寄与するため、当金庫預金量1兆円達成を記念して設立。京都を基盤に活躍する芸術家3名に、毎年「京都美術文化賞」(賞牌と賞金200万円※)を贈呈し、受賞記念展を開催しています。第37回の受賞者は猪熊 佳子氏(日本画)、吉岡 俊直氏(版画)、草間 喆雄氏(ファイバーアート)でした。

このほか、より多くの方々に美術文化に親しんでいただくため、2009年に開館した中信美術館の運営や、京都の美術文化についてさまざまな角度から考察する冊子『美術京都』を発行しています。

※2025年度より300万円に増額



中信美術館



京都美術文化賞受賞記念展



第37回京都美術文化賞 贈呈式

公益財団法人 中信育英会《1981年2月設立 2011年4月1日より公益法人移行》

学力優秀、品行方正でありながら経済的事由で修学が困難な学生を奨学援護するため、当金庫創立40周年を記念して設立。社会への貢献ができる人材の育成に寄与しています。これまでに940名の卒業生が巣立ち、さまざまな方面で活躍しています。

また、奨学生間のコミュニケーションをはかる機関誌『悠々』を発行しています。

